

# 令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 における苅田小学校の結果の分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和7年4月から令和7年7月末までの期間に、5年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。

## 1 調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

## 2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小学部第5学年の原則として全児童
- ・苅田小学校では、5年生 74名

## 3 調査内容

- ・児童に対する調査

ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）  
小学校調査では、以下の種目を実施する。

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、  
50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

イ 質問調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問調査を実施する。

# 令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

## 学校の概要

大阪市立荻田小	学校	児童数	74
---------	----	-----	----

### 平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	13.62	16.78	33.55	41.45	36.91	9.68	141.68	19.02	48.51
女子	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	14.06	18.21	37.18	43.19	28.77	9.87	135.65	13.33	52.49

### 結果の概要

本校5年生の体力合計点は、男子53.02点、女子53.97点であり、男女ともに全国平均および大阪市平均を上回る結果となった。体力水準は総じて高く、安定した成果が見られる。

質問項目「運動やスポーツをすることは好きですか」については、「好き」「やや好き」と回答した児童の割合が、男子93.5%、女子91.6%であった。男子は全国・大阪市と同水準であり、安定して高い肯定的意識が見られる。特に女子においては、全国平均（85.8%）、大阪市平均（85.0%）を大きく上回っており、運動に対する前向きな態度が十分に育っていることが確認できる。

また、1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は、男子11.1%、女子8.7%であった。これは大阪市平均（男子11.7%、女子20.0%）と比較して低い割合にとどまっており、特に女子においては市平均との差が明確に表れている。日常的な運動習慣の定着が着実に進んでいる状況である。

### これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

昨秋から今夏までプール改修工事を実施しており、その期間は運動場が狭くなるなど、運動環境に一定の制約があった。そのような状況下においても、体育授業における運動量の確保を工夫するとともに、縄跳びや持久走の強調週間を設定し、児童が自ら進んで運動に取り組む機会を計画的に拡充してきた。

その結果、体力合計点が全国・市平均を上回り、総運動時間60分未満の児童割合も市平均を下回るなど、環境制約を乗り越えて明確な成果を上げることができた。特に、女子における運動習慣の改善は顕著である。

今後は、改修を終えた環境を最大限に活用しながら、運動が苦手な児童への個に応じた支援を一層充実させるとともに、自ら運動に親しむ態度の育成を継続していく。

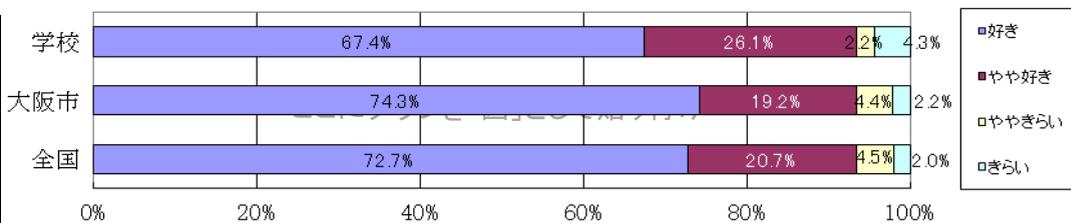
# 児童質問紙調査

検証シート: 各校で必要に応じて作成してください

## ◆男子◆

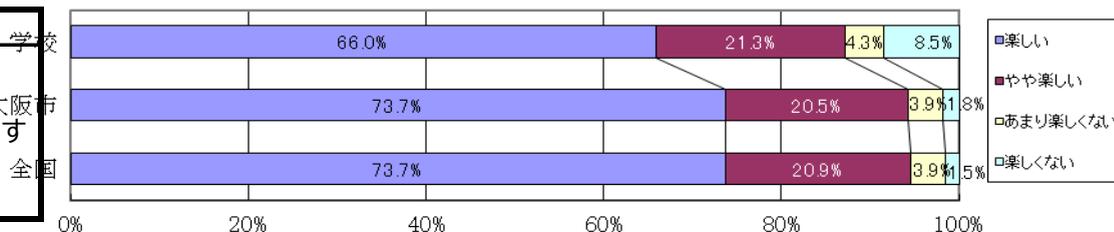
### 検証項目1

◆男子◆  
運動（体を動かす遊びを  
ふくむ）やスポーツをす  
ることは好きですか。



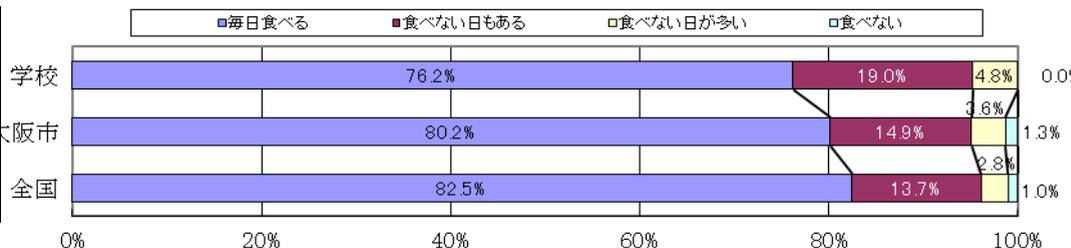
### 検証項目2

◆男子◆  
体育の授業は楽しいです  
か。



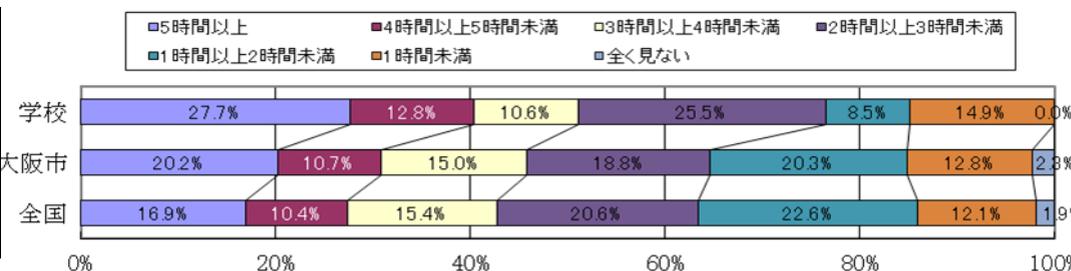
### 検証項目3

◆男子◆  
朝食は毎日食べますか。  
(学校が休みの日もふく  
めます)



### 検証項目4

◆男子◆  
平日に、学習以外で、1  
日にどのくらいの時間、  
テレビやDVD、ゲーム  
機、スマートフォン、パ  
ソコンなどの画面を見て  
いますか。



### ◆成果と課題◆

運動やスポーツに対して肯定的に捉えている児童は多く、運動そのものへの意欲は概ね保たれている。一方で、「体育の授業が楽しい」と回答した割合は市・全国と比較するとやや差が見られ、授業における達成感や満足感の向上が課題である。  
また、朝食の摂取状況や平日の視聴時間など生活習慣に関わる要素は、体力や意欲の基盤となるものであり、運動への前向きな気持ちを安定して維持するためにも、望ましい生活リズムの定着が重要である。  
運動意欲と授業の充実、そして生活習慣の改善を相互に関連づけながら取り組む必要がある。

### ◆今後の取組◆

- ・技能の習得過程を丁寧に支援し、「できた」「分かった」と実感できる授業づくりを推進する。
- ・個に応じた課題設定や段階的指導により、成功体験を積み重ねる。
- ・朝食の大切さや適切な視聴時間について、家庭と連携しながら啓発を進める。
- ・運動習慣と生活リズムの安定を両輪として、体力向上の基盤づくりを継続する。

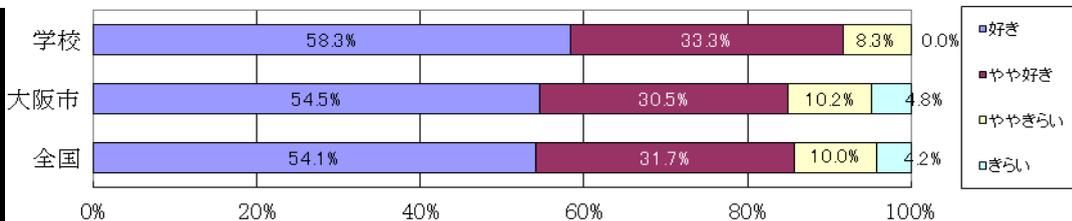
# 児童質問紙調査

検証シート: 各校で必要に応じて作成してください

## ◇女子◇

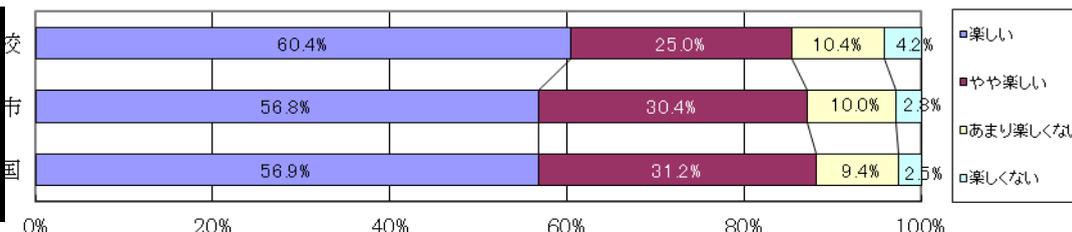
### 検証項目1

◇女子◇  
運動(体を動かす遊びを  
ふくむ)やスポーツをする  
ことは好きですか。



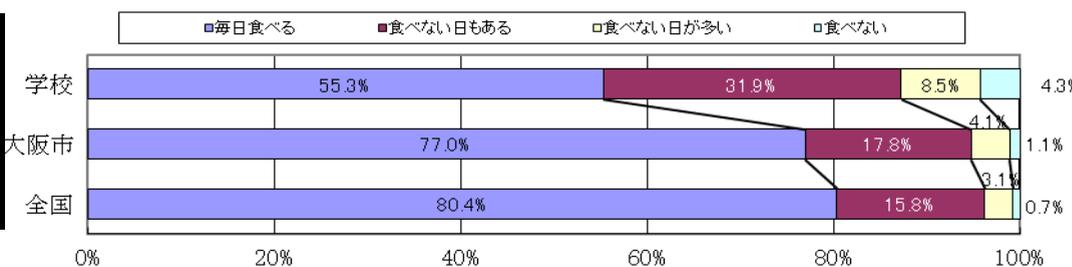
### 検証項目2

◇女子◇  
体育の授業は楽しい  
ですか。



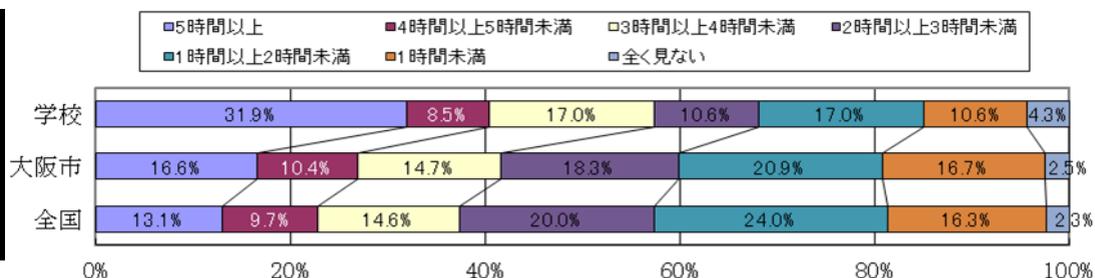
### 検証項目3

◇女子◇  
朝食は毎日食べますか。  
(学校が休みの日もふくめ  
ます)



### 検証項目4

◇女子◇  
平日に、学習以外で、1  
日にどのくらいの時間、  
テレビやDVD、ゲーム  
機、スマートフォン、パ  
ソコンなどの画面を見て  
いますか。



### ◇成果と課題◇

運動やスポーツが「好き」と回答した割合は市・全国を上回っており、体育の授業についても「楽しい」と感じている児童が多いことから、運動への好意的な意識と授業の充実が結びついている状況が見られる。一方で、朝食の摂取状況や平日の視聴時間など生活習慣は体力の向上と密接に関係しており、運動への意欲を持続させるためにも、生活リズムの安定を図る必要がある。運動に対する前向きな意識を強めとしつつ、生活面からも支える取組を継続することが課題である。

### ◇今後の取組◇

- ・仲間と協力しながら達成感を味わえる授業づくりを進め、運動の楽しさを一層高める。
- ・振り返り活動を充実させ、自己の成長に気づく機会を増やす。
- ・朝食や視聴時間等の生活習慣について家庭と連携し、望ましい生活リズムの定着を図る。
- ・運動習慣と生活習慣を関連づけた体力向上の取組を計画的に推進する。